

AJ

AQUA JOURNAL
Nature Aquarium
information magazine
Dec. 2022 100YEN

vol.
326

IAPLC 2022 TOP

Matthew Israel Manes
Zhemin Fan
Gang Zhao
Fuhong Guan
Trung Phan
Liwei Guan
TRỊNH HÀ LÊ

IAPLC 2022 TOP

IAPLC2022を振り返って

「楽しむことこそ創造の原動力」

IAPLC2022は81の国と地域から2,083作品のエントリーがあり、その審査はADAのIAPLC実行委員会と世界9つの国と地域から選出された10名のIAPLC審査員によって行われました。世界審査に進む上位100作品の選出についてはADAのIAPLC実行委員会によって行われ、オリジナリティや新規性を主とした作品の完成度によって判断されます。その上位100作品が10名のIAPLC審査員によって規定の審査6項目によって審査されました。今年は例年にも増して流木や石などの構図素材の印象が強い作品や苔類や

シダ類を多用した緑一色の作品が多く、頭抜けた作品がなかったため、わずかな差を見極める審査になったようです。いわゆる作品のパターン化が進んだことで、年を追うごとに全体の作品レベルや完成度は高まったものの、独自の新たな表現が生まれにくくなっていると言えるでしょう。これまでのIAPLCの歴史の中で数々の新たな表現が生まれ、それらがパターン化して表現も洗練されてきたのが今の状況であり、今後は多少荒削りでもオリジナリティのある表現に挑む作品や新たな世代の創造性が期待されるところです。

そうした中、今年はフィリピンのマシュー・イスラエル・マネ氏の「ASCEND/上昇」という作品が総合得点1,418点を記録し、世界ランディング1位(グランプリ)に輝きました。非常にシンプルなレイアウトながら階段状の美しい構成が印象的であり、それが作品の個性として際立っていました。コンテスト作品ではいろいろな要素を詰め込みがちになりがちですが、その点今年のグランプリ作品は潔さがあり、作者の自信があらわれているように見えました。また、作品のパターン化に加えて、今年の上位作品の傾向として魚の存在感が弱かった印象がありました。水草レイアウトの主役となる魚ですが、これもパターン化している傾向がありますが、その選択や水景との組み合わせによっては見違えるほど異なる水景があるので、作品づくりの中で魚の選択自体をもっと楽しんでみてもいいでしょう。IAPLCは作品を競う場ではありますが、どれだけ水草レイアウトを楽しめるかが大切なことでもあり、この後のTOP7の方々の紹介ページでもそれがおわかりいただけると思います。これからもIAPLCを通じて水草レイアウトをもっと楽しみましょう。



上位7名に贈られた
特別仕様の
記念トロフィー。



**IAPLC 2022
GRAND PRIZE**

Matthew Israel Manes
マシュー・イスラエル・マネス / フィリピン

Ascend

上昇

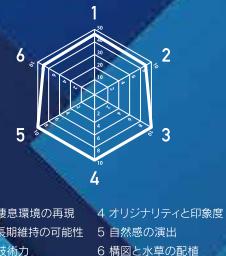
Aquarium Size W120×D45×H45 (cm)



JUDGES' COMMENTS

André Longarço / Brazil

細部へのこだわり、そして左右のレイアウトが力強く対比していることからくるこの作品の壮大さは感動的です。力強く、かつ大胆な陰影により、とてもナチュラルに遠近感が演出され、黄金比に従ってできた空間によって奥行を素晴らしい表現しています。このような質の高い才能あふれる作品の評価に携われたことを名誉に思います。



André Longarço / Brazil
が選んだベストアクアリウム



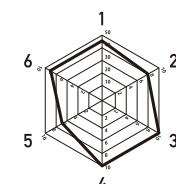
©AQUA DESIGN AMANO



JUDGES' COMMENTS

Gireg Allain / France

この水景で最初に目を惹かれるのは、空間によってつくられた“目”です。この目に捉えられると身動きができないくなる、そんな感覚に陥ります。しかし、私にとってこの水景の最も魅力的な点は、両サイドのレイアウトの絶妙な非対称さです。植物の正確なアレンジ方法により構造の素晴らしさも強調されています。まさにグランプリにふさわしい作品です。



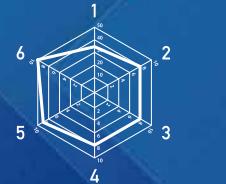
- 1 横断環境の再現
- 2 長期維持の可能性
- 3 技術力
- 4 オリジナリティと印象度
- 5 自然感の演出
- 6 構図と水草の配植



JUDGES' COMMENTS

Oliver Mengedoht / Germany

この作品は壮大な水中景観を表現しています。力強く立派な景色の中において、まるで自分自身が巨大な水中洞窟の中に立ち空に向かって上昇しているかのように感じます。ここでは岩、石、苔、そして命、すべてがつながり合っています。この目のような空間のその先にはどんな世界が広がっているのか、皆さんは想像をめぐらせることでしょう。



- 1 横断環境の再現
- 2 長期維持の可能性
- 3 技術力
- 4 オリジナリティと印象度
- 5 自然感の演出
- 6 構図と水草の配植

World
Ranking
1**IAPLC 2022
GRAND PRIZE****Matthew Israel Manes**

マシュー・イスラエル・マネス / フィリピン

年齢／26歳
職業／アクアスケーバー¹
アクアリウム歴／10年

過去の受賞歴／
IAPLC2017 728位
IAPLC2018 303位
IAPLC2019 561位
IAPLC2020 161位
IAPLC2021 5位

自らの実体験
海への恐怖心を乗り越えた
作品のコンセプトは



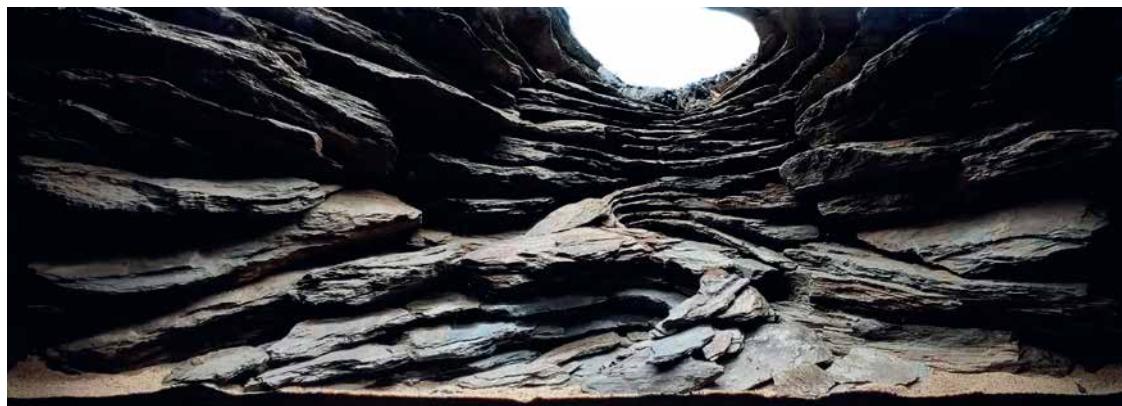
海に潜るという体験から今回のレイアウトの着想を得ることができた。

AJ 受賞したご感想をお聞かせください。
アクアスケープアーティストとして、今年ほど最高な年はありません。実は結果発表のYouTubeでの配信は見ませんでした。どうしてですかって？ 去年もそうだったのですが結果が気がかりで心臓は震えていました。私はそのような感情が苦手です。結果発表の日の午後、私は教会にいました。私は大親友のNicoに自分の代わりにライブ配信を見て欲しいとお願いしました。彼は受け入れてくれ、後ほど結果を教えてくれることになりました。そして結果が公表され、「順位を見る準備はできている？」とNicoに聞かれた私は「はい」と答えました。彼が彼の携帯を私に渡してくれたとき、“THE WORLD GRAND PRIZE”という文字が画面の中で光っていました。その夜、私がどのように感じたか、言葉では表

現できません。これは、私にとってまさに夢だったのだということを思い出し、突然涙があふれ出しました。その夢を叶えるために多くの努力を費やしました。結果発表の前日、我が国に勝利をもたらすのだ、と自分自身に誓いを立てました。フィリピン人がグランプリを勝ち取る、それはIAPLC始まって以来、史上初のことであり、そしてこのことは世界的に認められるはずだと。IAPLCは世界的に最も名誉のある水草レイアウトコンテストの1つであることは皆さんもご存じの通りです。もし、グランプリを獲得することができれば、アクアスケーピングの世界において素晴らしい経験となります。

AJ 今回の作品のテーマ、モチーフ、アイデアなど制作意図を聞かせてください。
あなたは今、水中にある洞窟の中にいます。そして空気を得るために、上に向かって泳ぎ進んでいるのです。そのような様子からタイトルは「Ascend/上昇」としました。このコンセプトは私が海への恐怖心をどのように乗り越えたのかを表しています。

AJ 作品を制作、管理するうえで苦労した点を聞かせてください。
下方や上方の骨格形成、そして空間制作は私にとって難しかったです。表現したいビジョンと実際の作品を結びつけるためには、私たちは革新的でなければなりません。水槽管理



影の存在を重要視し細部に至るまで緻密につくり込んだ。



スケッチによって頭の中にあるイメージをアウトプットしていく。

はシンプルで、特に問題はありませんでした。

AJ 水草や魚種の選定する上でのポイントについて教えてください。

水草の選定に関してですが、水槽全体において、骨格が隠れてしまうことのないよう選定しました。このレイアウトにおいて、影の存在もとても重要です。適切な魚を選定するのと同時に、彼らをベストなポジション、つまり上に向かって泳ぐ様子だったり、洞窟のトンネルを飛んでいるコウモリのように泳がせなければなりませんでした。

AJ 水草レイアウトのどのようなところに魅力を感じますか。

私にとってアクアスケーピングは単なる趣味以上のものです。私の芸術センスを披露する方法、披露する場です。生体を含んだ水

槽の中で自然のさまざまな姿を表現することができるなんて、本当に驚きです。

AJ コンテスト入賞の秘訣はありますか。
ささやかですが、私からのアドバイスは常に自然界であなたの趣向に合うインスピレーションを探し求めること、そして心に決めたアイデアを探索し続けることです。

AJ 今後、つくってみたいレイアウトや夢は何ですか。

誰もが今まで見たことのないような、大きなインパクトのある作品を制作したいと思っています。私の最終的な目標は他のフィリピンアクアスケーバーがグランプリを獲得

することです。
AJ アクアリウムクラブに所属している場合は、その活動内容を聞かせてください。
フィリピンで多くのクラブに所属しています。セミナー、ワークショップ、地元やフィリピン国内でのコンテストを通してメンバー同士互いに助け合い、技術の向上に努めています。

AJ 世界水草レイアウトコンテストについてどう思われますか。

IAPLCは私にとってただの名誉ある世界的コンテストではありません。IAPLCのおかげでコミュニティの団結力が高まり、この趣味が世界中に名をはせることになるのです。



セミナーやワークショップなどのイベント活動も精力的に参加している。



国内コンテストを通じて知り合った仲間たちとつながり合い、ともに技術の向上に努めている。

World
Ranking

2

IAPLC 2022
GOLD PRIZE

Zhemin Fan

ジュウミン・ファン / 中国

年齢 / 53歳
職業 / 電気製品会社管理者
アクアリウム歴 / 13年
趣味 / 音楽、中華料理

過去の受賞歴 /
IAPLC2014 27位
IAPLC2015 154位
IAPLC2016 120位
IAPLC2017 173位
IAPLC2021 40位

水草レイアウトは
人々を癒し気持ちを
落ちつかせてくれる



今回の作品のコンセプトとなった森の中の渓流。



小川に横たわる流木のイメージをレイアウト制作に落とし込む。

Jiangang Diao / China
が選んだベストアクアリウム



Mountain Stream in the Forest

森の渓流

Aquarium Size
W150×D60×H55 (cm)

の主催者と審査員の方々、自分の作品を認めていただき本当にありがとうございました。来年も頑張りたいと思います。

AJ 今回の作品のテーマ、モチーフ、アイデアなど制作意図を聞かせてください。

AJ 受賞したご感想をお聞かせください。
8月27日の夜、IAPLC結果発表の配信を見ました。私が見たときはすでに100~40位が発表されていて、中国の何人かがTOP100に入っていましたが、私の名前はありませんでした。そして同じCAA中国水景協会のメンバーである私の友達が8位に選ばれました。彼がいい成績を取ったことをうれしく思うと同時に、自分の成績が良くないと落胆しました。いよいよトップ7の発表となりました。第6位、第4位、第3位、ここまで中国の参加者が3名入賞し、本当にうれしく誇りに思いました。そして第2位となる金賞作品が発表された瞬間、自分の作品「森の渓流」が画面に映し出されました。まったく思いもよらず、まさかの2位です。この瞬間、本当に嬉しかったです。IAPLC

森の中を流れる川で見られるような枯れ木が倒れているシチュエーションからインスピレーションを受け、この構図を制作しました。流木を組み合わせてつくった三角形の木のフレームを、奥に向かって交互に配置することで立体感が生まれます。また、このように構図のレイヤーを重ねることで、前景、中景、中背景、背景と視線を誘導するようお行きを表現しています。

AJ 水草や魚種の選定する上のポイントについて教えてください。

流木には2種類のモスを配置しました。斜め

の枝にウェービングモス、中景前方の流木にプレミアムモスを配置することで、双方のコントラストが生まれ、インパクトが強くなります。ほんのりとした色彩のロターラ sp. ミニとミロオフィラムを植栽することで、中景の流木に広がるプレミアムモスの緑色と対比効果が生まれています。また、背景には過剰な養分を吸収し、藻類の繁殖を抑えてくれるロターラ・ロトンジフォリア・グリーンを大量に配植しました。魚はカージナルテトラをチョイスしました。この魚は撮影の際、群れをつくることが簡単です。また、緑の水草

とのコントラストが美しく、体色と躍動感がある魚です。

AJ 水草レイアウトのどのようなところに魅力を感じますか。

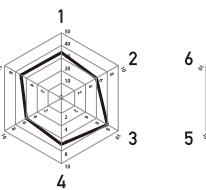
水草レイアウトの最大の魅力は、人の気持ちをおだやかにしてくれることです。状態の良い水草を見ると、悩みや嫌なことが吹き飛んでしまいます。

AJ アクアリウムクラブに所属している場合は、その活動内容を聞かせてください。

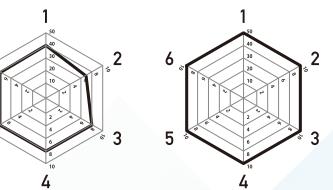
私はCAA中国水景協会に入っており、毎年仲間同士で、水草レイアウトやIAPLCなど

について話し合いをしています。
AJ コンテスト入賞の秘訣はありますか。
作品のイメージがあれば、できれば図面に書き出したほうが良いかと思います。図面で欠点を見つけたり、水草の配置を決めたりすることがしやすくなります。準備作業に時間がかかりますが、レイアウトの実施や水草の育成がその分楽になります。少しの努力で良い結果を生み出すことができるのです。

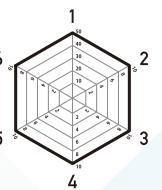
Adip Sajan Raj / India



Gireg Allain / France



Jiangang Diao / China



コンテストに向けて小まめなメンテナンスは欠かせない。



定期的に仲間たちと集まり水草レイアウトなどについて話し合う場を設けている。

World
Ranking

3

IAPLC 2022
SILVER PRIZE

Gang Zhao

ガン・チョウ / 中国

年齢 / 50歳
職業 / 水景クリエイター
アクアリウム歴 / 6年
趣味 / 美術

過去の受賞歴 /
IAPLC2021 108位

徹底的にこだわる
イメージした光景を
つくるため細部まで



植栽の段階でも撮影し、画像にデジタルペイントしながらイメージを固めていく。



Unknown Hometown

未知なる郷里

Aquarium Size
W120×D60×H45 (cm)

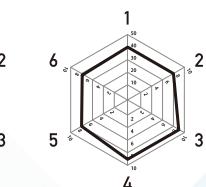
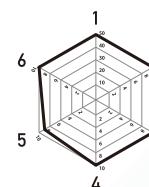
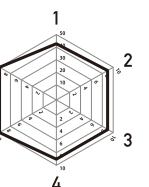
審査員の評価

- 1 棲息環境の再現
- 2 長期維持の可能性
- 3 技術力
- 4 オリジナリティと印象度
- 5 自然感の演出
- 6 構図と水草の配植

André Longarço / Brazil

Yu-Fa Huang / Chinese Taipei

Albert Connally, Jr. / U.S.A.



め、満足に至るまで調整の繰り返しが必要でした。

AJ 水草や魚種の選定する上でのポイントについて教えてください。

水草の種類選びはとても重要だと思います。例えば森の景観にはモスを使用しますが、特にプレミアムモスは細部を非常に細やかに演出してくれます。水草の色も大事で、例えばモスやグロッソスティグマ、ブセファランドラなどはよく使われる水草ですが、色の濃淡の違いでグラデーションが生まれます。魚は小型で観賞に適したグリーンネオンを選びました。

AJ コンテスト入賞の秘訣はありますか。
成功か失敗かは、細部にどれだけこだわるかで決まると思います。

AJ おすすめのADA製品とその理由を聞かせてください。

アクアソイル-アマゾニア、パワーサンド、液体栄養素シリーズなどでしょうか。どれも素晴らしい製品です。

AJ IAPLCについてどう思われますか。
IAPLCは世界で最も知られ、水草レイアウト愛好者にとって最高の殿堂であることは間違ひありません。



限られたスペースで、個性的な世界をつくりあげることが水草レイアウトの魅力。



植栽もメンテナンスも素晴らしい作品に仕上げるために細部までこだわった。

World
Ranking

4

IAPLC 2022
SILVER PRIZE

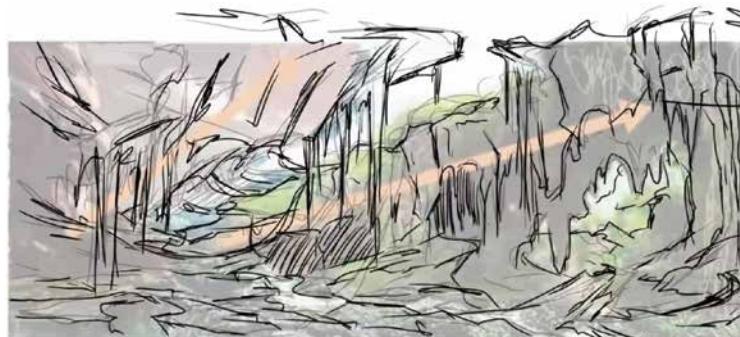
Fuhong Guan

ホンフウ・グアン / 中国

年齢／38歳
職業／フリーター
アクアリウム歴／5年
趣味／釣り

過去の受賞歴／
IAPLC2019 3位

「勤勉さ」と「探究心」
そして「ポジティブ思考」が
好成績を収める秘訣



頭の中のイメージをスケッチによって可視化する。



Old Valley

古き渓谷

Aquarium Size
W120×D50×H50 (cm)

AJ 受賞したご感想をお聞かせください。
ADAや審査員の方々、自分の作品を高く評価してくださってありがとうございました。銀賞を頂戴したことは大変光栄に思います。友人の叶毅さんから自分が銀賞をいただけたという知らせを聞いたときは本当に驚きました。それと同時に友人が8位の成績を収めたことも嬉しく思いました。今年はコロナの影響や仕事の都合で水景づくりにも影響があり、イメージ通りに作品を完璧に上げることはできませんでした。しかしながら、これまでさまざまな困難を乗り越え、作品を完成させ、無事にコンテストに参加できた自分を褒めたいような心境です。これはADAに対する愛、そして水草レイアウトへの愛情が自分を支えてくれたのだと思います。改めてADAと審査員の方々には感謝を申し上げます。最後にコロナがいち早く収束することを願っています。来年は皆さんでよい成績を収め、新潟でお会いしたいですね。

AJ 今回の作品のテーマ、モチーフ、アイデアなど制作意図を聞かせてください。
今年の作品は「古き渓谷」と言います。大渓谷に水が緩やかに流れるシーンを表現しています。構図は、いくつかの三角形の骨格を組み合わせて広くて迫力のある渓谷の岸を表現しています。また、ヒドロコティレを大量に使用し、崖がつる植物で覆われているかのような効果を演じました。さらに、谷の頂上にフジ(藤)に見たてた水草を配置し、全体像をよりワイルドで、自然なものにしました。

AJ 作品を制作、管理するうえで苦労した点を聞かせてください。

この作品の骨格は中国で「エビ木」と呼ばれている流木でできています。この流木の特徴により渓谷の崖のような迫力が出せたと思いますが、その一方で木を多く用いていたため初期は水槽の水に黄ばみに悩まされました。それを解決するため約2カ月間は毎日水槽の約半分の水を換水していました。

AJ 水草や魚種の選定する上でポイントについて教えてください。

水草の選定についてはテーマに沿った水草を選び、より自然な風景に近づけることを心がけています。例えば崖をツル植物で覆われているシーンを再現するためヒドロコティレを選択しました。魚についてはレイアウトバランスを考え、壮大な空間をつくるために、小型のテトラ系を選定しました。この作品は全体的に暗い印象なので群泳感を強調するため、白色のラミノーズ・テトラを

選びできるだけ色彩にコントラストをつけて、見る人のアイキャッチになることを狙っています。

AJ 水草レイアウトのどのようなところに魅力を感じますか。

自分の好きな自然風景を参考にし、それを水槽へ再現することが水草レイアウトの最大の魅力だと思います。

AJ コンテスト入賞の秘訣はありますか。

私が思うに秘訣は3つあります。まず「勤勉さ」で、水景のメンテナンスには手を抜かず、きれいな水景によって人を喜ばすということ。次に「探究心」で学び続けること。先輩たちに学び、レイアウトの構図、水草の配置、工夫などを絶えず探求すること。最後に「ポジティブ思考」で、人生を楽しむ、そして自然を愛すること。その3つのポイントが入賞する秘訣だと思います。

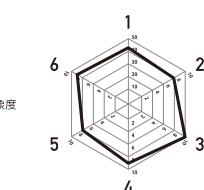
AJ おすすめのADA製品とその理由を聞かせてください。

ソーラーRGBです。水草の状態を良好に維持してくれます。また、プロシザースは便利で実用的なので愛用しています。

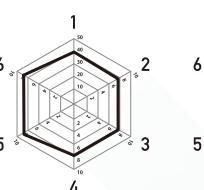
AJ IAPLCについてどう思われますか。

IAPLCは水草業界のオリンピックだと思い

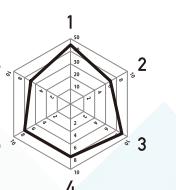
Adam Paszczela / Poland



Adip Sajan Raj / India



Shogo Yamaguchi / Japan



複数の三角形の組み合わせにより迫力と自然感が生まれた。

World
Ranking

5

IAPLC 2022
BRONZE PRIZE

Trung Phan

チュン・ファン / ベトナム

年齢 / 32歳
職業 / 不動産関連
アクアリウム歴 / 10年
趣味 / 読書

過去の受賞歴 /
IAPLC2017 18位
IAPLC2018 24位

安らぎを感じさせる水景
を目指したのは
手持ちの素材を活かした

Shogo Yamaguchi / Japan
が選んだベストアクアリウム



New chapter

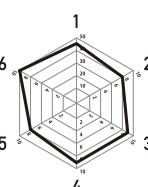
新章

Aquarium Size
W120xD65xH50 (cm)

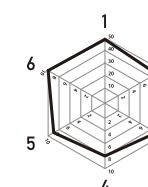
審査員の評価

- 1 樹木環境の再現
- 2 長期維持の可能性
- 3 技術力
- 4 オリジナリティと印象度
- 5 自然感の演出
- 6 構図と水草の配植

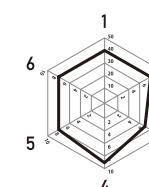
Adam Paszczela / Poland



Shogo Yamaguchi / Japan



Yusuke Homma / Japan

World
Ranking

6

IAPLC 2022
BRONZE PRIZE

Liwei Guan

リウェイ・グアン / 中国

年齢 / 51歳
職業 / サラリーマン
アクアリウム歴 / 16年
趣味 / プセファランドラを育てる

過去の受賞歴 / なし

視覚的なインパクトを
意識した作品づくりが
功を奏した



Autumn Rhyme

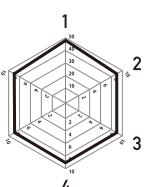
秋の韻

Aquarium Size
W90xD55xH45 (cm)

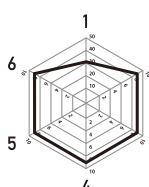
審査員の評価

- 1 樹木環境の再現
- 2 長期維持の可能性
- 3 技術力
- 4 オリジナリティと印象度
- 5 自然感の演出
- 6 構図と水草の配植

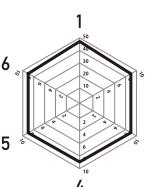
Jiangang Diao / China



Oliver Mengedoht / Germany



Yu-Fa Huang / Chinese Taipei



のポイントを手前の倒木に合わせ、被写界深度を浅くしてシャッターを切りました。こうすることで、後方の木々とサイズのコントラストが生まれ、見る人がその場に臨んでいるような視覚的インパクトを実現しました。

AJ 水草や魚種の選定する上のポイントについて教えてください。

秋の色鮮やかな森のイメージを高めるためにロターラ sp. トロピカを後方に植栽しました。手前にはアヌビアス・ナナ 'アルビノ' を配置し、葉っぱのサイズ感でレイアウト全体のスケールを調節しています。また、多種多様なモスを植栽し、実際の森に自生する苔のイメージを表現しました。魚はジャックナイフテトラをチョイスしました。群れで泳ぎ、色が淡く上品であるため、景色と合わせるととてもきれいに見えます。

AJ 今後、つくってみたいレイアウトや夢はですか。

来年の作品の大まかなイメージはもうできており、インパクトが強い作品にしたいと考えています。そして、もちろん夢はIAPLCの表彰台の真ん中に立つことです!

World
Ranking

7

IAPLC 2022
BRONZE PRIZE

TRỊNH HẠ LÊ

チン・ハレ / ベトナム

年齢／36歳
職業／アクアリウム製品の売買
アクアリウム歴／12年
趣味／植樹、建築設計、音楽鑑賞
絵を描くこと、バスケットボール
子供と遊ぶことなど

過去の受賞歴／
IAPLC2019 221位
IAPLC2020 731位
IAPLC2021 84位

それぞれのストーリーや
バックグランドによって
さまざまな表現ができる



Wind and Water

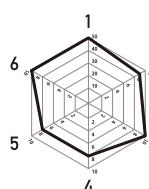
風と水

Aquarium Size
W120×D50×H50 (cm)

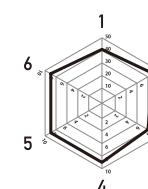
審査員の評価

- 1 横息環境の再現
- 2 長期維持の可能性
- 3 技術力
- 4 オリジナリティと印象度
- 5 自然美的の演出
- 6 構図と水草の配植

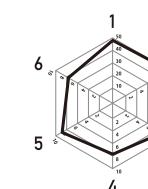
Albert Connelly, Jr. / U.S.A.



André Longarço / Brazil



Adip Sajjan Raj / India

IAPLC 2022
BEST AQUARIUM SELECTION
BY EACH JUDGE

各審査員が選んだベストアクアリウム

ベストアクアリウムとは上位100作品の中から各審査員が1位に選出した作品です。惜しくも上位7作品には選ばれませんでしたが、独創性が高く目が離せない作品ばかりです。ここでは世界ランキング7位以下の該当作品をご紹介します。



World Ranking No. 8

Yi Ye / イー・イエ
People's Republic of China / 中国
Forward and Backward Flow / 順流と逆流
W120×D50×H50(cm)

Greg Allain / France
が選んだベストアクアリウム

World Ranking No. 17

Mareira Júnior / マレイラ・ジュニオ
Brazil / ブラジル
Nascente de utinga / ウティンガの水源
W70×D44×H30(cm)

Oliver Mengedoht / Germany
が選んだベストアクアリウム

World Ranking No. 20

Joao Pinheiro / ジョアオ・ピネイロ
Portugal / ポルトガル
Deep Connection / 深きつながり
W160×D60×H60(cm)

Yusuke Homma / Japan
が選んだベストアクアリウム

World Ranking No. 21

Katsuki Tanaka / タナカ カツキ
Japan / 日本
Green Valley / グリーンバレー
W120×D50×H50(cm)

Adip Sajjan Raj / India
が選んだベストアクアリウム

World Ranking No. 22

Renan Selingardi do Amaral / ヘナン・セリンガルディ・ドゥ・アマラル
Brazil / ブラジル
The place of Gameleira / ガメレイラ
W120×D50×H45(cm)

Yu-Fa Huang / Chinese Taipei
が選んだベストアクアリウム

World Ranking No. 24

Marcelo Takeno / マルセロ・タケノ
Brazil / ブラジル
Valley of Shadows / 影の谷
W120×D45×H45(cm)

Albert Connelly, Jr. / U.S.A.
が選んだベストアクアリウム

World Ranking No. 39

Xudong Zheng / ショウドン・ゼン
People's Republic of China / 中国
Dawnlight / 晓の光
W150×D50×H50(cm)

Adam Paszczela / Poland
が選んだベストアクアリウム

AJ編集部が独断で選んだ注目作品6選

予選通過した100作品のうち、世界審査員によって各自上位10位以内に選ばれた作品は、右の6項目によって採点されます。コンテスト上位にランクインするためにはこの審査のハードルをクリアしなければなりません。そんな中、オリジナリティに磨きをかけたスタイルだったり、オルタナティブ表現に挑戦したり、そういった作品が毎年生まれるのもIAPLCの醍醐味の一つではないでしょうか。今回AJ編集部が、世界二次審査の6項目それぞれの視点から注目すべき6作品を選んでみました。



1.棲息環境の再現

この項目の高い配点率からもわかるように、水草レイアウトとは本来、魚にとって安心できる棲みかであることが大切です。この作品はベタの故郷を作者の自然観によって表現しています。水草の印象が弱いため順位こそ伸びなかつたようですが、棲息環境の再現の観点からは今大会屈指の作品と言えるでしょう。こういった偏愛的なスタイルを見れるのもIAPLCの楽しみの一つです。



IAPLC 2022 114位
「棲家」
W120×D50×H50(cm)
小野 昌志 / 日本



水草レイアウトの主役はあくまで魚であり、魚種や大きさ、生態がレイアウトにマッチしているかが重要。



2.長期維持の可能性

この作品を見て、まずアヌビアスに着目しました。しっかりと根を下ろし自然のままに群生している姿が印象的で、時間が経過したアヌビアスの魅力を効果的に引き出しています。その点で、他の森林風レイアウトとは一線を画しており、単なる撮影のためのレイアウトではないことが一目瞭然でした。おそらく、景観の長期維持を見据えたレイアウト構成なのでしょう。



IAPLC 2022 236位
「Causality」
W155×D85×H55 (cm)
Long Tran / ベトナム



無理のないつくり込みが結果的に長期維持につながり、水草レイアウトを長く楽しむためのコツ。

【世界二次審査6項目】



3.技術点

有茎草の配色バランスが秀逸で、それぞれの魅力が引き立っています。作者の豊富な水草の知識とメンテナンス技術の高さを感じました。水草をまるでカラーバレット上の絵具として捉えるような感覚から生まれるカラフルさもこの作品ならではの魅力だと思います。



IAPLC 2022 51位
「サマーレイン・ダイバー」
W120×D50×H50 (cm)
上野 知明 / 日本



コンテストでは、水草の知識のみならず、制作から完成に至るまでの総合的なスキルが求められる。



4.オリジナリティと印象度

インパクトや独創性が先行して魚の棲息環境として破綻しているレイアウトをよく見ますが、この作品はそのバランスが取れている好例。石垣(飛び石?)によって植栽エリアを区切ったアイデアは斬新で、一度見たら忘れない強烈な印象がありました。



IAPLC 2022 11位
「風の往く道」
W120×D50×H50 (cm)
徳差 江里 / 日本



入賞作品のクオリティが拮抗している中、さらに上位を目指すには独創性は必須と言える。



5.自然感の演出

ジオラマチックな作品を観賞する際、絶景スポットを臨んでいるような緊張感がありますが、この作品からは、身边にある自然をふと眺めているような安らぎを感じました。植栽バランスも絶妙で、あえて草むらのような自然感を狙っているのでしょうか。チルアウトできる作品でした。



IAPLC 2022 194位
「TETRA RIVERBED」
W90×D45×H45 (cm)
Azizan Borhan / マレーシア



自然感は水草レイアウトをつくる上で欠かせない要素。作者の自然観がもつとも試される。



6.構図と水草の配植

迫力を重視したオーソドックスなスタイルで、流木がレイアウトの骨組としてしっかり機能しています。水草の植栽位置も的確で無駄がなく、前景草から背景草まで豊富な種類を使用していることから、作者が水草レイアウトを楽しんでいる気持ちも伝わってきました。



IAPLC 2022 141位
「気泡に魅せられて」
W90×D45×H45 (cm)
直井 美智代 / 日本



構図と水草の印象のバランスが取れ、調和しているかが評価のキーポイントになる。

ADA AQUATIC PLANTS LAYOUT CONTEST 2022

IAPLC基準で
ADAスタッフの腕前を評価

IAPLCと同じスケジュール、同じ審査基準で行なわれるADA社内水草レイアウトコンテストを今年も開催! ネイチャーアクアリウムを愛してやまないADAスタッフたちが腕を競い合いました。IAPLCで審査員を務める本間 裕介による講評も合わせてご紹介します。

本間 裕介

ネイチャーアクアリウムの継承と発展に力を注ぐADA水景クリエイター。IAPLC2021より審査員として、鋭い視点で出品作品をジャッジ。



Daichi Araki 荒木 大智 (海外貿易部)

「茂みに憩う」

無作為に茂った水草に魚たちが集まる様子をイメージして制作しました。水景のやさしさは表現できたのですが、頭を空っぽにしてつくったためにメリハリが足りませんでした。今後は無作為と作為のバランスを取り、より感動的な水景をつくりたいと思います。



水槽サイズ W120×D45×H45 (cm)

ADA RANKING 01



Naru Uchida 内田 成 (ネイチャクリエーション部)

「森の窓」

水草の生い茂る水中の森を魔法の窓から見渡したような、自分の中の理想郷を水槽の中に表現してみました。制作から約半年間と長期的に維持管理をし、当初の思惑通り水草が生み出す無作為な世界を演出できたと思います。水面の波やブルーバックの演出にこだわりましたが、まだ甘さがあり勉強が必要だと反省しています。



水槽サイズ W120×D45×H45 (cm)

【本間 裕介の講評】

モスのつき方に不自然な部分があることと、魚の印象が弱いことがあります。上位になればなるほど審査員は細かな部分を見る傾向があり、細部の丁寧なつくり込みが重要になってきます。この水景の場合は、天野 尚が評価の際に重視していた水槽の四隅も美しくつくり込まれているので、これらを改善すれば、さらに高い評価が得られる作品になったと思います。

ADA RANKING 02



Ryuji Ogawa 小川 龍司 (生産開発部)

「彩光と濃影」

水草が光を受け鮮やかに発色する様子を複数のローターで表現し、その色彩を引き立てる影の演出も意識しました。背景のボリュームの差とトリングラインの微調整、また意図した表現ですが、前景に整然さが足りなかった点を今後の反省点としていきます。



水槽サイズ W90×D45×H45 (cm)

【本間 裕介の講評】

全体的な色彩バランスがよく、多種多様な水草を使用している点はとても好感をもてます。その反面、構図や空間の抜けが狙い通りに伝わりにくく、見る人によっては雑然とした印象を受けるかもしれません。このレイアウトの場合、流木には少しでもウイローモスを巻いたほうが水景としての一体感が生まれたと思います。撮影技術は高いので、奥までしっかりピントを合わせるようにしたいですね。



植物の環境流出を防ぎましょう。
環境影響への意識を持ちましょう。

ADAでは多種多様な植物を提供している責任として上記のスローガンを
グリーン・マナーとして呼びかけています。これからもそれに付随する知りたい
基礎知識を発信していきます。グリーン・マナーを守って植物の育成をお楽しみください。

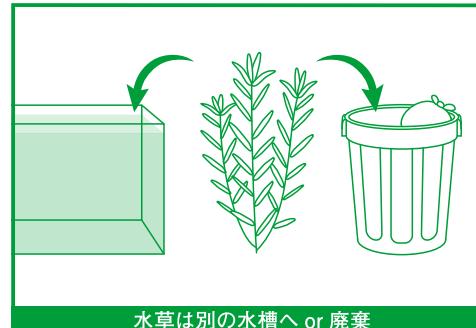
□ 実行可能なグリーン・マナー活動

文／小川 龍司

植物を野外に出さない取り組みの一例として、今回は水槽のつくり替えの際の留意点を紹介します。
さまざまな水草が使用されるIAPLC出品作品においても同様の意識を持って対応をお願いいたします。



排水は確実に水切りネットなどを通す



水草は別の水槽へ or 廃棄

葉や茎などの切れ端一つでも自然界へ影響を与える場合があります。
モスの切片や稚魚、稚エビなども排水とともに流れてしまう場合は網目細かいネットを使用しましょう。



素材は磨き上げて保管

モスや活着性水草が付いたまま野外で保管すると環境流出のリスクとなります。保管時や次回使用時のカビや藻類発生を抑えるためにもしっかりと磨き洗いを行いましょう。



底床は水を切って廃棄

底床には根や下草のランナーなど発芽・増殖のことのできる植物体が含まれています。網やザルなどで水を切り、袋に入れて廃棄するようにしましょう。

※水草や残土などは屋外に廃棄せず、自治体の定める廃棄物として処分するようお願いいたします。

まとめ
水草レイアウトやアクアテラリウム、パルダリウムなどで使用される植物は海外原産のものが多く、野外に出してしまうと本来の自然環境を搅乱させる恐れがあります。水草やジャングルプランツといった植物を育てる趣味をこれからも末長く楽しむために、「グリーン・マナー」へのご理解とご協力をお願いいたします。



詳しい情報はこちらから
グリーン・マナーについてのコラムや
意識向上のための植物知識といった
内容を発信する「グリーンインフォメーション」を特別連載しています。

<https://www.adana.co.jp/jp/aquajournal/green-manners/>

INFORMATION

世界の水草レイアウトのトレンドがこの一冊に。

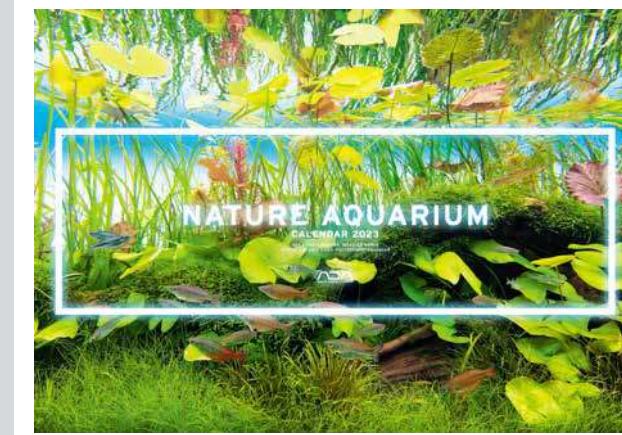
今年は81の国と地域から2,083作品もの応募がありました。今回の作品集には、昨年同様、世界ランキング1位から2,000位までを掲載。圧倒的なボリュームで水景カタログとして見ているだけでも楽しく、審査員の評価コメントも充実しています。この作品集を読んで今年のコンテストを振り返るとともに、傾向の分析や来年に向けた作品づくりの参考にしてください。



○サイズ／W220×H297 (mm)
○全160ページ(モノクロ32ページ)
○本体価格1,700円(税込) ※お近くのADA販売特約店でお求めください。



IAPLC BOOK 2022
WORLD RANKINGS 1-2000



ネイチャーアクアリウム カレンダー2023
NATURE AQUARIUM CALENDAR 2023

ADA水景クリエイターが制作した作品を収録したネイチャーアクアリウム・カレンダーです。2023年版には、「NATURE AQUARIUM EXHIBITION 2022 OSAKA」で展示された180cm水槽の水景の中から厳選した6作品を掲載しています。イベントでご覧いただいた水景をご自宅でもお楽しみください。



オモテ面



ウラ面

※ウラ面は水景ポスターとして飾ることができます。

STAFF CREDIT

AQUA DESIGN AMANO CO.,LTD.
©2022 Printed in JAPAN

Publisher

天野 しおぶ
NATURE AD DESIGN

丸山 悟司／市川 亮／高遠 将史／板橋 広夢

Editor 杉本 俊輔／柴田 康文／小川 龍司／亀山 喬史郎／吉田 壮佑／知念 政次朗

総監修・大岩 剛／写真監修・阿部 正敏

Art Direction

市川 亮

高遠 将史／板橋 広夢

丸山 悟司／市川 亮／高遠 将史／板橋 広夢

吉田 壮佑／知念 政次朗

大岩 剛／写真監修・阿部 正敏

Design

丸山 悟司／市川 亮／高遠 将史／板橋 広夢

吉田 壮佑／知念 政次朗

大岩 剛／写真監修・阿部 正敏

Published by
株式会社 アクアデザインアマノ
<https://www.adana.co.jp>

Printed by
株式会社山田写真製版所

NEXT AQUA JOURNAL

January 2023 vol.327 / 2022年12月10日(土) 発売予定

アクアジャーナルの情報は一部、
ADAホームページで公開しています。

Aqua Design Amano Laboratory

ssp.
UMEDA



ADA LAB、大阪初上陸！

ADAの“今”が体験できる体験型ストア・ADAラボ。

注目を集める「ADA LAB GINZA」に加え、

今年12月7日から大阪・阪急うめだ本店に

「ADA LAB ssp. UMEDA」が期間限定でオープンします。

ネイチャーアクアリウムの展示をはじめ

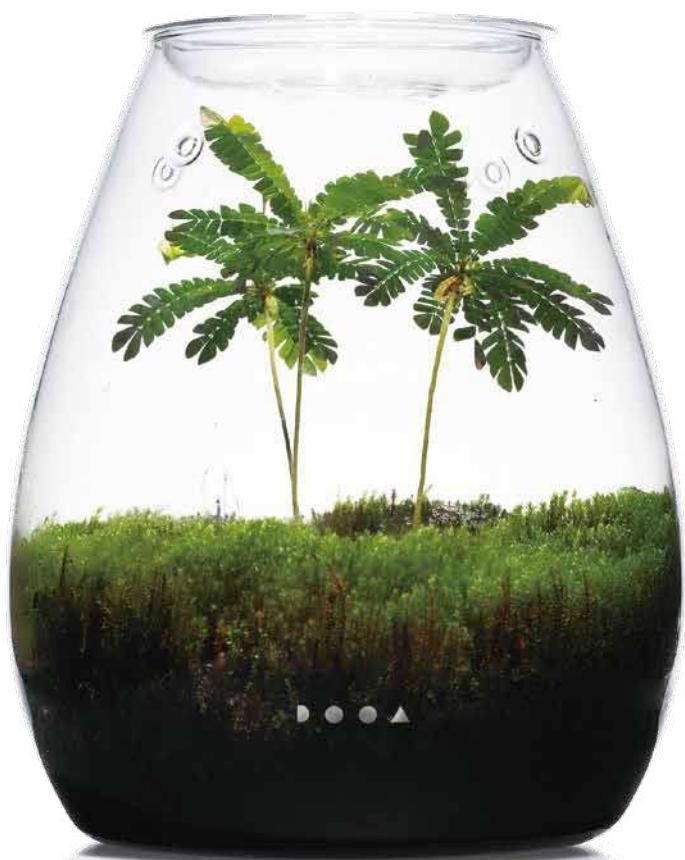
ミニパルダリウムのレディメイド品を多数そろえる他、

ワークショップも随時開催。

店内には経験豊かなスタッフが常駐し、

水景や植物に関するご質問にもお答えいたします。

今年のクリスマスシーズンは、ADAラボへ。



ADA LAB ssp. UMEDA
2022.12.07 WED - 12.25 SUN
阪急うめだ本店 8階 コトコトステージ 81



Aqua Design
Amano
Laboratory

